

東アジアの平和を求めてーポスト・コロニアルの日中関係を中心にー(第1回)

## 「ポスト・コロニアリズム」とは何か

浅野慎一

※兵庫県AALA連帯委員会『アジア・アフリカ・ラテンアメリカ(兵庫県版)』2021年9月掲載記事に若干加筆しました。

この連載では、戦後の日本と中国の関係に焦点を当て、東アジアの未来社会の姿を考えてみたい。その前に、皆さんは「ポスト・コロニアリズム」という言葉をご存じだろうか。これは、現在のアジア・アフリカ・ラテンアメリカを考える上で、とても重要な概念だ。

そこで連載の第一回目にあたり、この概念を私なりに解説しておきたい。

「ポスト・コロニアリズム」とは、帝国主義・植民地支配が崩壊した後の世界を構成する理念・原理だ。日本による植民地支配は、1945年に崩壊した。欧米の帝国主義によるそれも、1960年代には概ね崩壊した。世界のほとんどの地域で民族解放・国民主権が達成された。つまりポスト・コロニアルの世界社会が到来したのである。

こんなふうに言うと、ポスト・コロニアルの世界はすばらしい社会のようにも思える。

でも、本当にそうなのだろうか。

今なお、戦争・内戦・国際テロ・独裁政治は絶えない。地球環境破壊はむしろ一層深刻化している。貧困・経済格差も拡大の一途をたどっている。人種・民族や性に基づく差別、さまざまな人間疎外(生きづらさ)もますますひどくなっている。民族解放が達成されたはずの国々から、政治的弾圧や経済的貧困を理由に多くの難民・移民が流出している。移民や難民は、いわゆる先進国への自由な移動・入国を国境・国籍という壁によって阻まれ、ようやく移動を果たしても「非国民＝外国籍者」として主権から排除されている。国民主権が達成されたはずの日本でも、貧困や格差は広がり、さまざまな人権侵害が蔓延している。再び「戦争ができる国づくり」も目論まれている。

こうした現実を変革しようとする時、ザックリ言って二通りの立場がある。

第1は、「主権国家や民族自決が悪いわけではない。問題は、今なお帝国主義・植民地支配の負の歴史が完全に払拭・清算されず、真の国民主権・民族解放が確立されていないことだ。国民主権に基づいて各国が正しく問題の解決を図っていけば、いつかこれらの問題は解決できる」という立場だ。これを近代主義という。

これに対して第2は、「国民主権や民族解放の達成だけでは、解決できない問題がある。しかも国民主権や民族解放は、場合によっては国籍や民族という枠組みに人々を縛り付け、またその枠組みで人々を排除する不完全な制度だ。この歴史的限界・制約を直視し、国民国家を乗り越えた新たな世界社会を築くべきだ」という立場である。こちらが「ポスト・コロニアリズム」の考え方だ。

2つのうち、どちらの立場に立つかによって、戦後史の見え方はまったく違ってくる。在日韓国朝

鮮人、中国残留孤児、従軍慰安婦や徴用工、原爆や空襲の被害などの問題の捉え方も、微妙に変わってくる。

別の言い方をしよう。20世紀中葉までの帝国主義時代、民族解放・国民主権の実現は人類にとって大切な政治的課題・「正義」だった。それはまた、民族解放・国民主権さえ実現すれば、人類は幸福になれるという「夢」がもてた時代でもある。そしてこの「夢」は、1960年代までに概ね達成された。しかし人類は幸福を手にすることができず、時と場合によっては国民国家がむしろ人間の不幸の原因になる場合さえ立ち現われてきた。そこで国民国家を乗り越えた世界の模索、つまり「ポスト・コロニアリズム」が人類にとって新たな政治的課題・「正義」・「夢」になりつつある。

たとえば、二国間で領土争いがおきた時、近代主義の立場に立てば「どちらかの国（たいていの場合、自国ではなく他国）が国家主権を不当に侵害し、帝国主義的に侵略しようとしている」と考えやすい。そして両国政府間の平和的な話し合いによる解決が望まれる。一方、「ポスト・コロニアリズム」の立場では、「領土争いが起きるのは、主権国家が排他的に領土を支配しているからだ」と考える。主権国家は「固有の領土」をめぐる、戦争すら起こしかねない危険で厄介な存在だ。だから当該地域の民衆自身が国籍・国益・主権にこだわらず、主体的に話し合って平和的に管理方法を決めることが望ましい。このような「ポスト・コロニアリズム」の展望は、近代主義者の目には非現実的・空想的と映る。でも逆に「ポスト・コロニアリズム」の立場から見れば、国益や主権を絶対に譲らない国民国家どうしの話し合いに解決を委ねる方が、よほど非現実的・空想的で、しかも危険ということになる。

あるいはまた、こうも言える。イギリスのチャーチル元首相は語った。「民主主義（国民主権）は最悪の政治だ。これまで試みられてきた民主主義以外のすべての政治体制を除けば、だが」。これをふまえて「やはり国民主権でやっていくしかない」と考えるのが近代主義、「それなら国民主権に代わる新たな政治体制を作ろう」と考えるのが「ポスト・コロニアリズム」だ。

皆さんは、どちらの立場が正しいと思うだろうか。

次回以降、戦後の東アジア社会のダイナミックな変化や現状を見る中で、さらに具体的に考えていこう。